

# 青山

AOYAMA

題字／浄土門主総本山知恩院門跡  
第八十六世中村康隆猊下

## 本堂復興

梅窓院二十五世  
中島真成

はやいもので、もう三月、桃の節句となりました。年をとると月日の経つのがはやくなると聞いていましたが、私もそういう事が少しわかりかけてきた気がします。

さて、本号は建築家の先生とご一緒の写真とさせていだきました。昨年十二月に皆様にお知らせいたしました梅窓院の本堂復興計画の主役ともいえるのが、この先生です。

今回のこの計画は、梅窓院の長い歴史を振り返っても、その一ページに記される大きな事業といえます。そうした時に住職としてその任にあたることを深く感謝するとともに、計画遂行するにあたり、人の縁の有難さをつくづく感じているのが、偽らざる気持ちです。縁の大切さということとを仏教は説きますが、特にこうした多くの方々にお力をいただく時には、一層その思いを強くいたします。

「多くの方の集いの場でありたい」

これが今計画の一つの大事な柱ですが、そうした私達の想いと先生の想いが重なり、新本堂の構想が作り上げられていきました。

若くして日本を代表する中堅建築家の隈先生が、偶然近隣にいらしたことも、そして同じ方向性を持つてこの計画に参加していただけることになったのも、まさに仏縁のなせるわざと、思えばかりです。

そういう意味では、新しい本堂が、より多くの方々にご利用いただけることが、恩返しかと思つています。どうぞ、今後とも皆さまからのご指導をいただければ幸に存じます。よろしく願います。

### 境内散策

#### 山門

昭和三十九年の東京オリンピックで青山通りが拡張され、それまでの山門は解体され、現在の山門が新しく作られました。

長青山と山号がかかっている現在の山門は、今回の本堂復興に伴い場所こそ移転しますが、その姿は変えることなく梅窓院のシンボルとしてあり続けます。



街並に一際目立つ山門。

### 行事紹介

#### 春彼岸会大法要／彼岸寄席

三月二十日（火）

法要・午後一時 祖師堂

寄席・午後二時半 観音堂

落語 柳家さん喬 師匠

※入場無料。皆様お気軽にお立ち寄り下さい。

#### 文化講演会

講師 淑徳大学 北野大教授

四月十九日（木）祖師堂

開場 午後五時半

開演 午後六時半

※青山読者の皆様 入場無料

〔詳細は八面へ〕

#### 海外団体参拝

中国・西安・上海・洛陽

五月十日（木）～十九日（土）

#### 日帰り団体参拝

鎌倉・横浜方面

六月九日（土）

〔詳細は別紙参照〕

団参お問い合わせ 檀信徒部  
〇三（三四〇四）八四四七

#### 仏教講座

「往生要集」を読む 全五回

講師 新井俊定先生

（第一・二・三回は終了）

第四回 三月二十二日（木）

第五回 五月十日（木）

午後六時半～八時半



浄土宗ゆかりの香積寺。



梅窓院の新本堂建築計画はすでにお伝えしましたが、その具体的な計画をこの『青山』でも特集していきます。

最初は今計画の要ともいえる設計者の さんの登場です。

さんは日本を代表する設計家の一人で、これまでに多くの賞を受賞、世界中で講演をされています。その さんに新生梅窓院についてお話いただきました。



**青山文化村(以下「青」)** 本日はよろしく願いいたします。

まず、青山という町についてからお伺いしたいのですが。

私が独立して設計事務所をこの青山に構えたのが十年前です。なぜ青山にしたかという理由は、この町が時代の空気を感じられる魅力を持っていたからです。

**青** 時代を感じるとは具体的にどういうことでしょうか。

純粹でない町、ということとです。

**青** 純粹でない町？

はい。つまり純粹なオフィス街ではない、純粹な住宅地でない、純粹な商業地域でない、ということです。

逆にいうと、ある程度オフィスがあり、住宅があり、店舗もあり、文化施設もある。という複合的な町ということですね。この点で青山はまさに条件のそろった町といえます。

**青** バランスのとれた町ということですね。

はい。このバランスのとれた町というのは意外と限られます。青山から渋谷、代官山、そして恵比寿といった辺りでしょうか。

私は一年程ですが、ニューヨークに住んだことがあります。近くのソーホーという町によく足を運びましたが、こうした時代の空気を感じる大切さをその時痛感しました。

**青** そうですか。ところで十年前と比べて青山は変わりましたか。

ええ、裏通りがだいぶ賑やかになってきて、人の流れが少し変わりましたね。

## 大切な聖と俗のペア

**青** 青山という青山墓地がすぐ浮かびますが、青山墓地はこの町にどういう役割を果たしているのでしょうか。

さすがお寺さんですね、目の付け所がいい(笑)。

青山墓地はいわばグリーンベルトで、建築物が立つことのないオープンスペースです。その点では建設地としては脇役ですが、こうした場所が実は

大切な役目を果たします。繁華街を俗とすると墓地や寺は聖なる場所です。

**青** なるほど、確かに墓地は聖なる場所ですね。

墓地が作り出す落ち着きや静けさがあってこそ、繁華街がより輝きを増すのです。

**青** 聖と俗のペア。よく参拝者の多い寺院の門前には商店街や、かつての花街があったと聞きますが……。

ええ、これは社会学的にも言われていることですが、この組み合わせは人が集まるのに不可欠なものなのです。

## 都市寺院の役割

**青** ところで、さんは菩提寺をお持ちですか。

はい。長崎の大村にある本経寺という日蓮宗の寺です。隈家は大村藩の殿様の家老だったこともあり、墓も殿様の横に建てられていて、墓参りする度に歴史や人間模様を感じます。

**青** 先祖からのつながりを大事に、とお寺ではお話ししますが、隈家の場合はそうしたご縁がまさに形となって今に続いているんですね。

そうです。歴史は畑違いですが、大村藩のことを少しは勉強して人にも説明できるようにしています(笑)。

**青** ご先祖を守るのは寺院の大切な役割ですが、その他に



1954年横浜生まれ。79年東京大学建築学科大学院修了。コロンビア大学客員研究員を経て、90年に隈研吾建築都市設計事務所を設立。98年には慶應義塾大学招聘教授として教鞭。自然と技術と人間との新しい関係を切り開く建築を提案。94年 通産省選定グッドデザイン賞施設部門「梶原町地域交流施設」。JCDデザイン賞'95文化・公共施設部門最優秀賞受賞「亀老山展望台」。97年日本建築学会賞「森舞台」等、受賞多数。

◆今号の梅窓院史は、紙面の都合上お休みさせていただきます。



寺院に、特に梅窓院のような都市寺院に期待することは何でしょうか。

核心にせまりましたね。都市寺院の役割はコミュニティでしょう。

青 コミュニティ、つまり集いの場所ですね。

ええ、生きている人、亡くなった人を含めての交流は公民館ではできません。寺院だからこそでしょう。過去、現在、そして未来までも含めた長い時間軸での触れ合い、こうした時間を大切にすることは世界的な趨勢なのです。

現代人には「集まりたい」という願望は非常に強いのです。ただ、集まるきっかけと

場所がないだけなのです。その点、寺院は格好のスペースではないでしょうか。

青 それは、この梅窓院にもいえますね。

はい。今回、お手伝いさせていただくにあたっては、長谷工コーポレーションさんからの紹介だったのですが、施工主である梅窓院さんの設計コンセプトが、今お話しした「集いの広場」、「広く一般の人にも受け入れたい」という考え方があったからです。

青 梅窓院と、さんの狙いが一致した、という訳ですね。

実は寺院の設計はこれが初めてなのですが、今回のように施工主との同意が合えば、良いものができると思っています。

## 新本堂の特徴は

青 さて、それでは新本堂について、具体的にお話いただけますか。

はい。では特徴から。

○青山のシンボルに

○ボチボチ通りの活性化

○魅力ある複合施設

○安心できるセキュリティ

○入りやすいアプローチ

以上が主なものです。

青 ここに模型がありますが、どちらが入り口ですか？

本堂への正面入り口は青山通から入り、ホールへの入り口はボチボチ通りから入り

ます。どちらにも寺院屋根をイメージしたアルミのすだれを配しています。

青 作品集を拝見しましたが、すだれが多用されていますね。

はい、光をうまく表現してくれそうですし、外から中がある程度見えるというのの一体感を生んでくれますからね。

特に今回のホール側の入り口には三十メートルという長さで使います。

青 とても印象的で、人目を引く外観ですね。

ホール前のホワイエはボチボチ通りと同じ高さで一体感を出し、自然に出入りできるアプローチにしました。

青 ホワイエはラウンジのことでですね。私たち文化村はイベント運営が大切な仕事ですが、人の出入りはとても気になります。

集いの場所というコンセプトにはアプローチはとても大切ですからね。

青 ほかに気を使われた点がありますか？

寺院は初めて手掛けるので、やはり日本の伝統を意識しました。

青 着工予定はこの五月と聞いていますが、一日でも早く隈さんの建築された新本堂を拝見したいものです。

本日はお忙しいところ、ありがとうございました。



青山には聖と俗がバランス良く混在している。



# 春のお彼岸

## 彼岸会大法要

三月二十日（火）

午後一時より 祖師堂にて

間もなく春の彼岸会を迎えます。今年は三月十六日から二十三日までの七日間です。

古来より「暑さ寒さも彼岸まで」といわれるように、彼岸の頃は寒さも弱まり、春の気配を感じる季節です。ぜひこの気持ちの良い日和に、ご家族皆様でお参り下さい。

## 彼岸塔婆お申し込み方法

同封のハガキを使い、三月十二日（月）必着でお申し込み下さい。

塔婆回向料は一本七千円とさせていただきます。

## お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、もしくは当院の受付まで直接お持ち下さい。  
※振込用紙は郵便局専用です。銀行では使用出来ませんのでご注意下さい。



彼岸中に開かれるお茶席。

## ◆お檀家様へのお願ひ◆

三月十七日から二十三日までの彼岸期間中は、お参りの方が大勢いらっしゃると思いますので、電車等を御利用ください。また、駐車場が満車の場合は御容赦ください。

## 春彼岸寄席

三月二十日（火）

午後二時半より 観音堂にて

落語 柳家さん喬 師匠

※入場無料です。

ぜひ、お立ち寄り下さい。

## 「プロフィール」

柳家さん喬（やなぎや・さんきょう）  
S 23年墨田区生まれ。S 42年柳家小さんに入門。S 56年真打昇進。正当な演出で観客を笑いの世界へまっすぐ引き込み、明るい人柄がそのまま表れる高座が魅力。仕草が洗練され、語り口がソフトな為、女性ファンが数多い。現在最も注目を集める、若手の実力派である。



高座で熱演する柳家さん喬師匠。

## 青山俳壇

選者：『俳句朝日』顧問 大崎紀夫

# 寒椿 白菜 初旅

## ◎特選（二句）

梵鐘の余韻昏れゆく寒椿

冬の日暮れの静けさがよく出ていて、句に余韻があります。

くれなゐの身を葉かげに寒椿

寒椿の姿をよく見て、ありのままを詠んで素直な句です。

## ◎佳作（五句）

白菜を漬けぬし母の二七忌

初雪を被て一輪の寒椿

初旅や仏のおはすたなごころ

食堂で白菜しこむ日なりけり

吉方に一陽走福柱かな

## ◎選者詠

白煮凝にひそむ魚の目玉かな

大崎紀夫

## ◆ワンポイントアドバイス◆

『言葉はやさしく。』

無理して難しい単語を選ぶのではなく、普段使っている言葉で詠みましょう。分かりやすく、やさしい言葉は、相手にさらりと伝わります。

青山俳壇では皆様からの俳句を募集しております。選者は『俳句朝日』の顧問、大崎紀夫氏です。今回のテーマは「蓮」ところでん」です。四月十日を締切とし、六月上旬発送予定の『施餓鬼号』にて発表させていただきます。応募は住所、氏名、年齢を忘れずにお書き添え下さい。お待ちしております。

※港区南青山二二六二三八 梅窓院  
「青山俳壇」投句募集係



## 成増

お寺はみんなが集う憩いの場。  
そうした縁を大切にするため皆さ  
んに梅窓院への想いを語って頂く  
「梅窓院を囲む人々」。第二回は成  
増で煎餅屋さんを営む、檀家の  
さんです。

(編集部)

## さん

店頭で奥様の さんと一緒に。

「幼稚園に通っている孫娘が  
家にくるとね、すぐ仏壇に向  
かって“なむあみだぶつ”つ  
て十回称えるのですよ。」

もう、それが嬉しくてうれ  
しくて……」

つぶらで綺麗な瞳を輝かせ  
ながら さんが話して  
くれた。

ここは東武成増駅から続く  
「なりますスキップ村」と名付  
けられた商店街の入り口にあ  
る老舗のお煎餅屋さん、『榮草  
庵』。

さんはその三代目で、  
昭和十四年生まれの一十一歳。

江戸時代生まれの曾祖父が  
梅窓院に墓を建立して以来の  
古い檀家さんである。

その さんが還暦を過ぎ  
ていることはもちろん承知の  
上だが、それでも瞳は「つぶ  
らで綺麗な」と形容したくな  
る。余談だが、取材後に編集  
スタッフ全員が「信心深い方  
って澄んだ目をしてるのだす  
ね。」としきりに感心し合った  
のである。

さて、『榮草庵』は明治時代  
に大塚で創業。初代は さ  
んの祖母 さんで、そして  
昭和十三年にこの成増へ移転、  
二代目は父の さんが継いだ。  
その父に連れられ、中学生  
になった さんは成増から  
青山の梅窓院まで、毎月必ず  
スクーターで墓参りにやって  
きたという。

「近くの花屋さんで買った花  
を小脇に抱え、三菱のシルバ  
ービジョンというスクーター  
の後に乗って行きましたよ。」

外苑近くまで来ると、梅窓  
院の今の本堂の屋根が見えて  
ね。受付で名前を告げると、  
拍子木で墓守りの方を呼んで  
くれてね。当時は土葬の名残  
りで、墓の近くにも十本の線  
香を立てましたね。

墓参りが終わると、どこに  
も寄らずすぐ帰る。お参りの  
時間より、行き帰りの時間の  
方がかかりましたけれど、楽  
しかった思い出ですね。

それと、先々代の住職の  
声、それこそ腹に響く声でね、  
今でも覚えていますよ」

そうした子供の頃の習慣か  
らか、今でも月が変わると、  
いつお寺に行こうかと、わく  
わくするという。もう社会に  
出て会社勤めをしている息子  
と、その家族たちとも一緒に  
行くこともある。何より孫娘  
に「いつお寺に行くの」とせ  
かされるのが楽しみという。

今は先代の頃の職人さんが  
独立し、その煎餅を仕入れて  
の販売のみで、店では焼いて  
いない。とはいえ、店に並ぶ  
百種類を超える煎餅やあらは  
は、すべて さんの舌にか  
なつたものばかりである。

看板は醤油の堅焼きで一枚  
七十五円。また今年はその堅  
焼きに金粉をまぶしたところ、



お得意さんが多く、まとめて買っていく。



新製品の堅焼き金粉まぶし煎餅は一枚、百十円。

暮から正月にかけて飛ぶよう  
に売れ、試しにと作った五百  
枚があつという間になくなつ  
たという。また、種類の多さ  
やこうした工夫もあり、何度  
もテレビにも登場している。  
実はこの春のお彼岸から、  
この『榮草庵』のお煎餅を梅  
窓院の参拝記念品、つまりお  
土産として販売する予定で、  
皆さんにも七日以上もかけて  
作られる本格派の手焼き煎餅  
を、お寺で味わっていただけ  
ることになる。

「お寺さんに三軒目の暖簾わ  
けですね。」

そう言って、 さんの綺  
麗な瞳がまた笑った。

中学時代の さん。

昔を懐かしむ さん。



# 食は命なり

## 武 鈴子



### 飲んで食べて温めて 「よもぎ」は薬草の 万能選手

『医食同源』——医療の根源は、日常の食事にあると言われています。『青山』では、日本型薬膳の研究家である武先生にご登場願ひ、旬の食材を用いて、家庭で手軽に作れる薬膳料理を紹介して頂きます。

三月三日は雛祭り。桃の節句とも呼び、桃の花を活けて、菱餅やよもぎ餅を飾ります。菱餅は紅、白、緑の三種の餅を菱形に切って重ね、足つきは菱形台に飾ります。紅い色は紅花、緑の色はよもぎで、いずれも体を温めて血のめぐりをよくする働きがあり、女の子の健康を祈る気持ちが込められています。

春先には独特の香気を漂わせて芽を出すよもぎは、別名モチグサともいい、若芽を草餅や草だんごに用います。私の郷里では、この新芽をゆでて、米粉と砂糖を加えてよく混ぜ合わせ、コロツケ状に型どって、サルトリイバラの葉で挟んで蒸したものを旧暦の桃の節句（四月三日ごろ）に作って食べる風習があります。

サルトリイバラのことを方言ではかからの葉と呼んでいることから、田舎ではこのお団子のことを「かからまんじゅう」といいます。これは私の大好物で、毎年春になると田舎の姉からこのおまんじゅうが届くのが何よりの楽しみになっています。

よもぎはどこにでも生え、生命力が旺盛で、一度生えたら採っても採ってもしぶとく

生え続ける害草でもあります。が、その生命力ゆえに、栄養学的にもすぐれていて、いろいろな薬効が知られています。風邪をひいたり、頭痛がすると、陰干しして乾燥したよもぎの葉を煎じて飲み、神経痛や冷え性だとお風呂に入れて体を温め、また生の葉は、きざんですり鉢ですりつぶし、布で濾して青汁を作り肝炎や高血圧、貧血、胃潰瘍などの治療に利用したり、切り傷、打撲の血止めに用いたり、私たち日本人は昔から伝承された生活の知恵で、よもぎを身近な薬草として利用してきました。

「食は薬なり」の考えを重視する沖縄ではよもぎを庭の片隅に植えて、食べる分だけ摘み採って細かく刻んでお粥や雑炊に入れたり、お餅にして健康野菜として常食しています。よもぎのことをフーチバーといい、市場には一年中よもぎの生葉が売られていて、山羊汁や魚肉を使った汁ものなどに臭み消しとして用いたり、カステラなどのお菓子にも幅広く利用されています。

漢方では、冷えによる腹部の痛み、下痢、鼻血、吐血、下血、性器の不正出血、こしけ、胎動不安、腫れ物などに用いますが、特に婦人科系の

の止血薬や安胎薬としてよく用いられます。

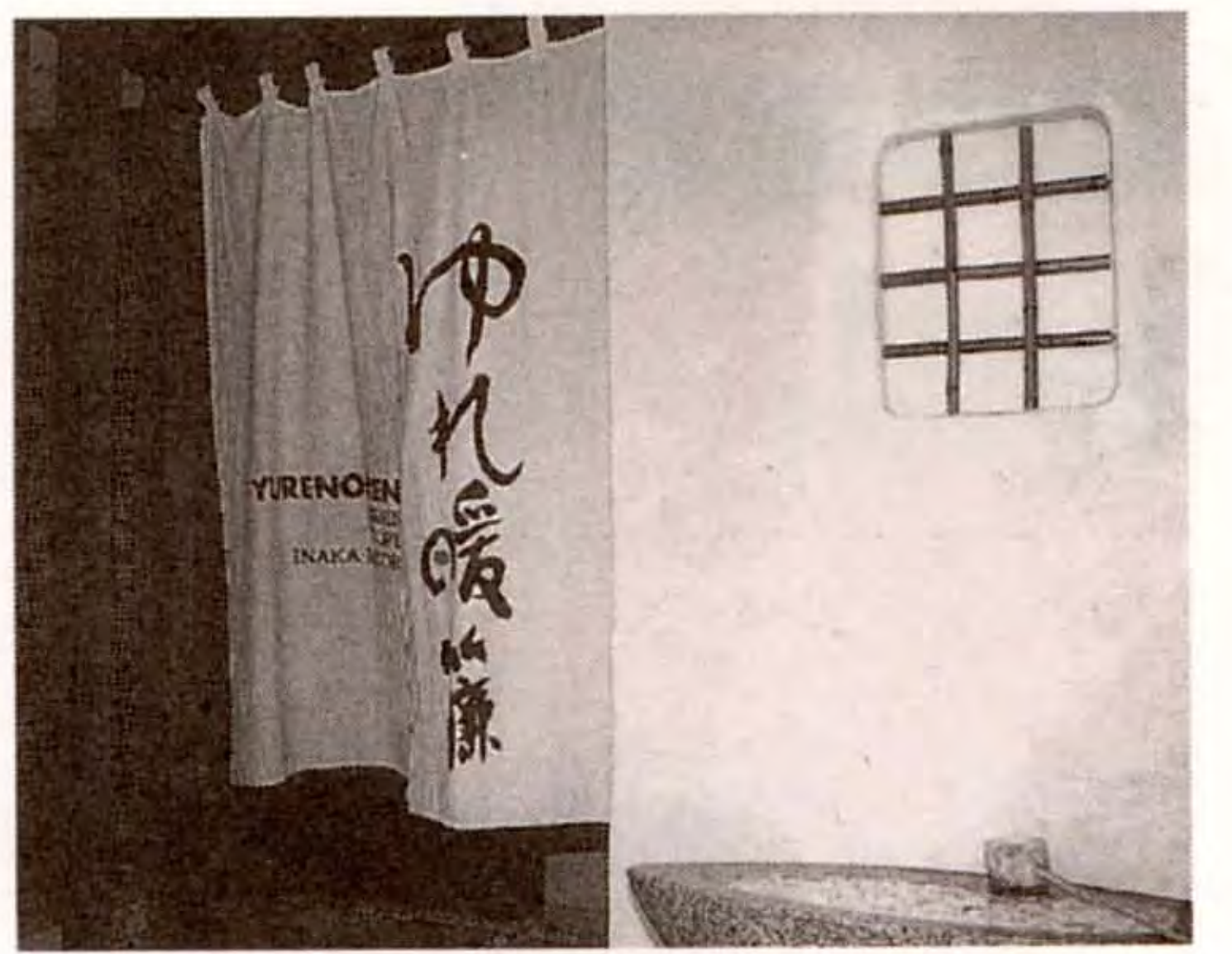
また、よもぎの葉の裏の白い絨毛はモグサの原料です。よもぎの乾燥した葉を細かくつき砕いた後、ふるいにかけてカスを除き、綿のようになつて残った柔草をさらしたものがモグサです。滋賀・岐阜両県の境にある伊吹山は薬草の宝庫といわれ名産になっています。モグサの品質は、その毛の直径と長さに左右されるといいますが、織田信長が植えさせたという伊吹山のよもぎは、その毛の長さと太さが均一に揃っているため、このモグサが良質なのだということです。



#### プロフィール

1937年鹿児島県生まれ。'70～85年柳沢成人病院研究所に勤務し、成人病と食生活の臨床研究と指導に従事。現在、(有)東京薬膳研究所主幹、食養研究家、日中医薬研究会会員。薬膳料理教室運営、健康食品業界コンサルタント、健康食品開発指導などに携わっている。





青山散歩道

## ゆれ暖簾のれん

### 青山店

今回は、ほっと一息、あつたかいおでんや、懐かしのおばんざいが食べられる、うれしいお店をご紹介します。



大きな暖簾をくぐると、そこは和の空間。大正ロマンの民家をイメージした店内は、



一度は味わいたい  
絶品のおでん。

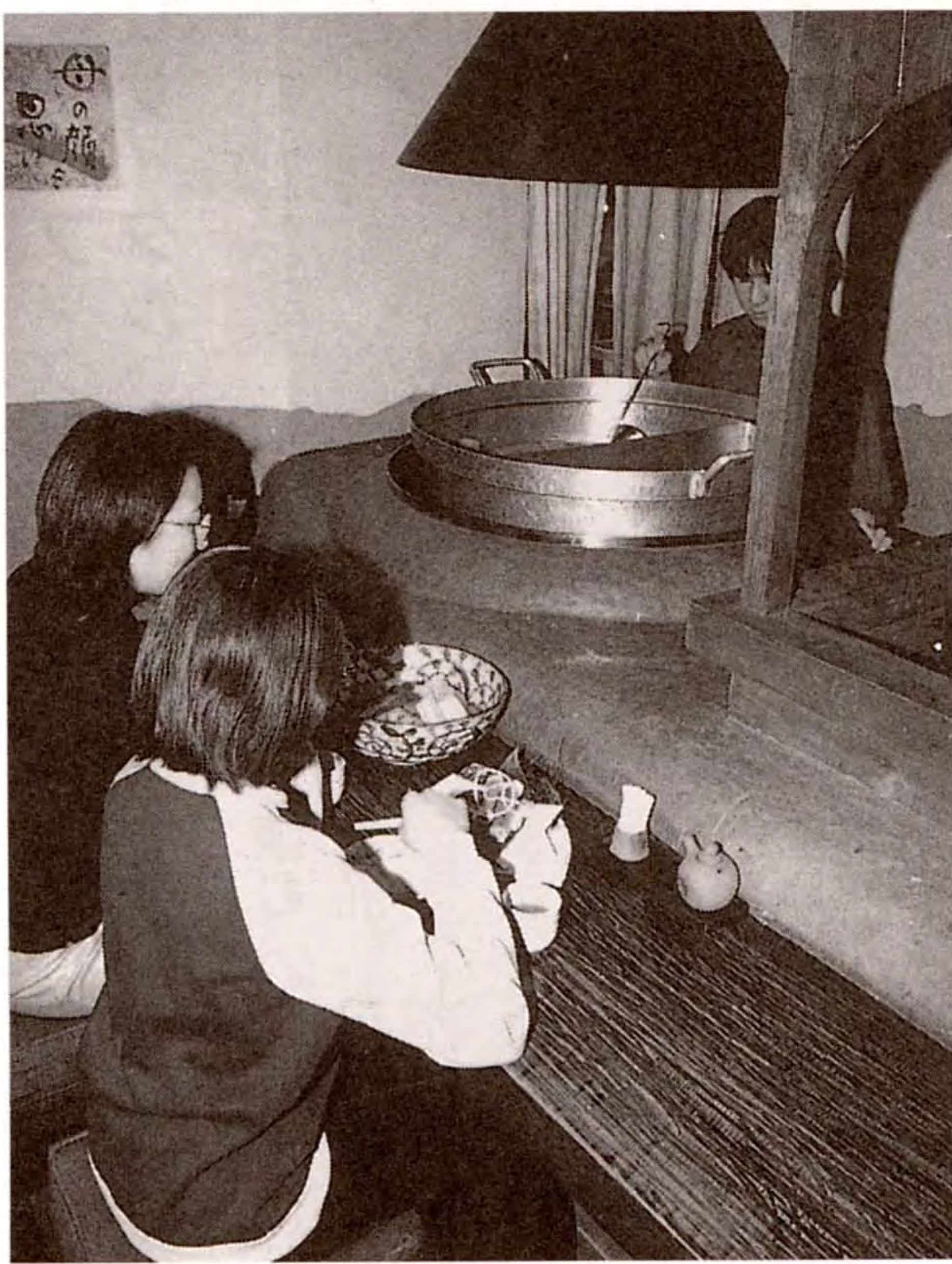
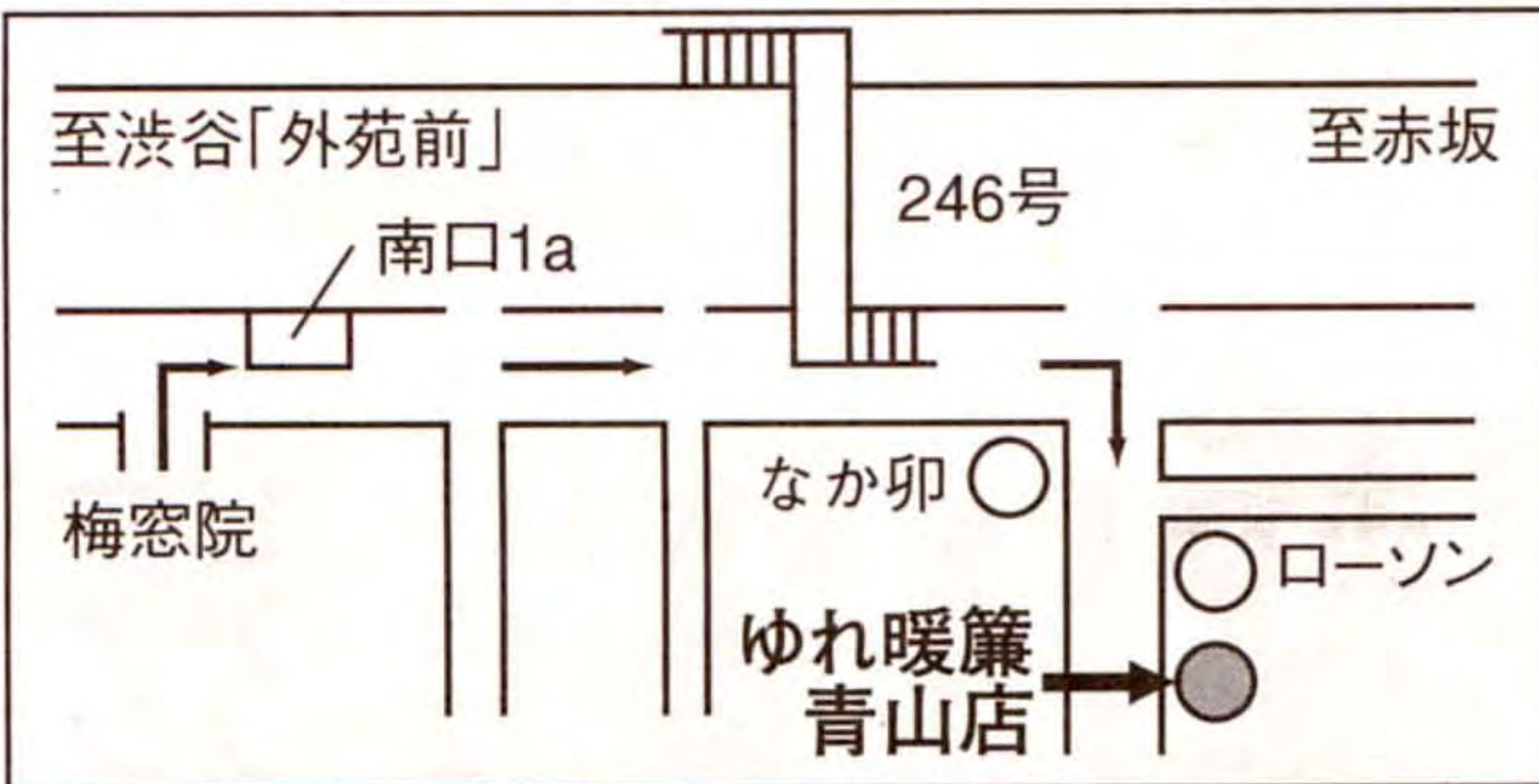
落ち着いた雰囲気ながらも、敷居の高さを感じさせません。昔ながらの味を意識したお料理は品数豊富。おすすめは国産大豆のみ使用し、お店で手作りしている豆腐料理。大豆のあまみが口にとろけて広がる贅沢な一品。また看板メニューのおでんは、関西風、関東風と、素材によって煮分けるという気の使いよう。そんなお料理を囲んだら、自然と笑顔がこぼれます。

お酒の銘柄の多さも自慢の一つ。こだわり派の店長が、自ら吟味し幅広く取り揃えているので、お気に入りの一杯が見つかるはず。

個室も二〜三名用から、三十名まで入れる御座敷もあるので、団体利用もできます。

また、平日のランチは日替わり定食で千円均一。毎日通っても、飽きずに楽しめます。

夜は予約をした方が確実。



お寺にお見えになられた時に寄ってみたいところ、入ってみたいお店などありましたら、お知らせ下さい。青山散歩道で取材し情報をお伝えいたします。





## ファンデンフック ピアノリサイタル

十一月十日 祖師堂にて

秋の恒例行事となっている、ファンデンフック氏を迎えてのピアノリサイタル。今回は一七〇名を超える来場があり、大変盛況でした。

演目はベートーベン作曲のピアノソナタをはじめ、私達にも馴染みある曲が並びました。特にアンコールでは、『荒城の月』など日本の曲をアレンジした即興曲を披露するなど、フック氏のサービスもたっぷりでした。

祖師堂での開催も、「力強く迫力のある演奏がよかった。」「奏者の顔、指先が間近で見れた。」など、大変好評を得ることができました。皆様のご来場、誠に有難うございました。(青山文化村)



## 仏教研究所だより

### 仏教講座

往生要集を読む

講師 新井 俊定 先生

第二回 十一月三十日  
第三回 一月二十五日

『往生要集』の内容と構成についてを、二回に分けてお話頂きました。『往生要集』は、今私たちが想像する「地獄・極楽」の様子が書かれていることで有名です。講義では、その内容に触れながら、源信の説く思想に迫りました。



### 宗教学入門

講師 川添崇先生

第二回 十二月十六日

「新宗教入門」と題し、現在数多くある新宗教のそれぞれの教義や、既成仏教との違いなどについて、お話して頂きました。



## 第二回 文化講演会

# 環境問題と 仏教の役割

講師 北野 大教授

日時 四月十九日(木)

開場 午後五時半

開演 午後六時半

会場 梅窓院祖師堂

各分野の著名人をお招きし、角度を変えて、宗教の問題に触れてゆく文化講演会。

今回は淑徳大学国際コミュニケーション学部教授であり、数々のテレビ番組にてコメンテーターも務める、北野大教授に講演をお願いしました。

『青山』の読者の皆さまは、無料ご招待致します。同封のはがきにてお申込下さい。お誘い合わせの上、ぜひご来場下さい。

※締切 四月十日(火) 必着

お問い合わせ 青山文化村

〇三三四〇四八五八八

主催 梅窓院

後援

浄土宗東京教区城西組青年会  
月刊『浄土』

企画 青山文化村



北野 大(きたの・まさる)プロフィール

'42年東京生まれ。  
'72年東京都立大学 大学院 工学研究科工業化専攻 博士課程 修了。  
'96年より淑徳大学にて教鞭をとる。専門は環境化学、リスクコミュニケーション。著書に『人間・地球・環境』『いま、飲み水が恐ろしい』『地球環境にやさしくなれる本』他。  
趣味は野球観戦、音楽。